

2005年(平成17年) 8月22日 (月曜日)

土佐  
あちこち

夏の仁淀 団体などが川の再生に  
川。アユ釣 取り組んでいるが、活  
りの人たちが 動はばらばら。毎年、  
のさおが 水質を調査している市  
林のよ 民団体は「データを真

うに並び、頭にかぶる や自治体に提出しても  
かさの 花で満開に 何の反応もない」。流  
なる。びくの中は元氣 域の市町村で構成する  
に跳ねるアユでいっば 仁淀川交流会議も、  
い。「すこいですね 「民間の環境保全団体  
え」と声を掛けると、 の数は把握していな  
釣り人からは一昔 い」とすれ違い気  
に比べたら大漁と 味だ。

連携の力

各団体の「点」の  
活動がつながり、  
「線」や「面」になれ  
ば、効果は大きい  
はず。シンボも関  
係機関が連携をと  
いう狙いから、三  
十五団体が初めて一堂  
に四百七十六トあっ に会した。

た漁獲量が、昨年は九 年々減少する仁淀川  
十トと初めて百トを割 のアユは、私たちへの  
ったという。家庭排水 警告でもある。川の未  
や砂利採取の影響で川 来のため、流域の人々  
の環境が悪化している がどうスクラムを組む  
のに対し、対策は思う のか。アユがいない川  
よりに進んでいない。 になってからでは遅  
国や県、流域市町 い。  
村、漁業関係者、民間 (土佐支局・明神)